

## 環境政策/法制度(モジュール4)・授業内容

### 1. 環境政策の概要(学習時間 25 時間)

環境政策の理解には、産業史、文明史など、人類社会の発展経緯の理解が不可欠である。モジュール学習開始にあたって、環境政策の基本理念と政策の目的を理解するため、下記ポイントについて解説する。

- 環境政策の基本理念
- 成長の限界と持続可能な発展の概念
- 政治過程と市民・行政・NGO・企業の役割
- 環境と文明・環境と産業の歴史
- 日本の経済発展と環境
- グローバル化する環境問題と環境政策

### 2. 環境政策の運用主体を方法(学習時間 25 時間)

ここでは、環境政策の政治過程において、どのようなアクターがどのような役割を果たすのかを理解すること、さらに、社会に環境へのインセンティブを持たせるためにどのような手法があるのかについて理解することが求められる。

- 環境政策のアクターと目的
- 環境政策の対象分野
- 法令と制度の枠組みと役割
- 環境政策の手法1:政治と外交
- 環境政策の手法2:立法と行政
- 環境政策の手法3:経済的手法
- 環境政策の手法4:文化との関わり
- 環境政策の手法5:情報ネットワークと環境コミュニケーション(環境教育)

### 3. 環境政策の決定過程(学習時間 25 時間)

実際の環境政策は、課題の発生や予見とそれへの対応という政治的な意思決定過程を通じて形成されていく。ここでは、政治学的な知見を参照しつつ、活着ている政策がどのように形成されていくかを動学的に理解する。なお、政策論を理解するにあたって、政治経済学的思考、とりわけ政策科学や経済政策、政治過程論の知識が求められる。この点について深く学びたい学生には、より詳細な専門的文献を紹介する。

- 環境政策の形成過程
- 政策科学の考え方
- 総合的社会科学としての環境政策
- 政治参加と環境政策

## 環境政策形成の事例

### 4. グローバル化と21世紀の環境政策(学習時間 25 時間)

21 世紀の環境問題は、世界経済のグローバル化に伴い、人口増加や貧困などの人間環境問題、地球温暖化や資源管理、生物多様性保護などの新しい環境問題を含みながら、そのパラダイムを大きく転換させている。これに対して環境政策がどのように変化しつつあるのかについて学習する。

グローバル経済と新たな環境問題1(人口と開発)

グローバル経済と新たな環境問題2(資源問題と生物多様性)

グローバル経済と新たな環境問題3(人間環境と自然環境のリンケージ)

環境政策の展開1(地球温暖化対策)

環境政策の展開2(廃棄物対策)

環境政策の展開3(生物多様性対策)

環境政策の展開4(環境と経済の融合と国際協力)

### 5. 日本の環境法体系の動向(学習時間 25 時間)

学生はこれまでのモジュール学習を通じて、環境政策の考え方とその展開領域について学んできた。これらの知識をベースとして、日本の環境法体系についての学習を深め、現代日本社会の環境ルールについて理解する。

環境法の歴史と体系

環境基本法と循環型社会形成推進基本法の考え方

廃棄物処理法のあらまし

個別分野のリサイクル法の特徴(容器包装リサイクル法・建築リサイクル法・自動車リサイクル法・家電リサイクル法・食品リサイクル法・グリーン購入法)

その他環境関連法規(農業基本法、まちづくり三法など)